１　日　時　　令和５年９月１３日（水）　午後１時１５分～午後２時３０分まで

２　場　所　　鳥取県中部総合事務所　Ｂ棟２階　２０５会議室

３　出席者　 出席者：１４名　（委員６名、事務局８名）

４　概　要

　　　　　　　・出席過半数により会議成立。

・部会長の選出→　立候補なしのため、事務局から岡田委員（中部医師会）を推薦・決定

　５　内容

（１）小倉所長あいさつ

〇平素より御協力賜り感謝。コロナで様々な制限があったが、受診控え等健康にも影響あったかと思う。

その中で健康づくりに取り組んでいただいた経過を踏まえ、本日は、家庭・職域での健康づくりの協議の場ですので活発な御議論をお願いします。

（２）部会長の選出　→　立候補なしのため、事務局から岡田委員（中部医師会）を推薦・決定

（３）岡田部会長挨拶

　　　　　　・健康づくり部会の出席は初めて。住民の健康づくりに理解をえていく場

（４）議　題　（議事進行：岡田部会長）

➀鳥取県保健医療計画及び中部地域保健医療計画について（資料２説明：織奥補佐）

○第８次保健医療計画の策定年度　（Ｒ６～Ｒ１１、６年間）

○現状・課題の把握、必要に応じて修正　　審議・

○新興感染症が加わり、５疾病７事業となる。各部会・協議会を経て医療審議会で審議・決定

○策定スケジュールは、第３回を１２月。地域計画を提出の予定

　　➁健康づくり部会（がん、脳卒中、心血管疾患対策、糖尿病、歯科保健医療）について（資料３，４説明：永美）

　　　●中部の概要

　　　・６５歳以上、高齢化率が高い　３５．１％。高い割合

　　　・身体的機能の低下

　　　・2040年問題（少子化による労働人口の減少、高齢者人口がピークに達する（団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者になる年））も踏まえ協議していく必要ある

●健康づくりについて（ｐ33）

　　　　※統計的なところを中心に説明

　　　（１）がん検診・特定健診の受診の向上（ｐ３３）

　　　〇平均寿命と健康寿命：全国１０位以内を目指す（県目標）。到達していない。

　　　〇がんの死亡率：75歳未満年齢調整死亡率いわゆる早死には、県２年連続下がってきている（県目標70.0を達成）。中部圏域では、経年的にみても胃がんの死亡率は高い傾向あり。

〇ｐ８　がん検診の受診率：他圏域と比較してやや低い傾向。令和２年度はコロナの影響を受けており、令和３年度には、令和元年の受診率に戻りつつはある。胃がんの受診率は低いが、内視鏡検診は上がってきている。ただ、全体としての受診率は低いので上げていくことの対策は継続していく必要あり。

　　　〇特定健診の受診率：国保だけでなく、協会けんぽ（職域）も掲載。

　　　〇職域での受診率向上の取り組みとして、「鳥取県がん検診推進パートナー企業認定数」が、令和３年度より減っている状況があるが、事業所が高齢化で廃業している状況がある。引き続き、認定できる事業所を増やしていく働きかけをしていきたい。

　　　（２）受動喫煙防止対策の推進と禁煙支援対策の推進（ｐ３５）

　　　〇Ｒ２健康増進法改正→受動喫煙の防止

　　　〇喫煙率：H28→R4年では、男性全ての年齢で減少。女性30代、50代で高い割合となっており、H28年より割合が増加。

　　　〇妊婦及び同居家族の喫煙率：同居家族の喫煙率は全国と比べ高い傾向。

　　　（３）運動の推進と習慣の定着（ｐ38）

　　　〇１日の歩行数：目標値（男：８０００歩、女：７０００歩）より２０００歩少なく（コロナの影響あったのかもしれない）、目標達成できず。国は７１００歩で到達できていない。

　　　〇運動習慣のあるもの割合は、県目標３０％以上（国は４０％以上）だが、達成できず。

　　　（４）糖尿病予防対策の推進（ｐ41）

〇糖尿病の予備軍及び有病者（４０～７４歳）の推定数：平成２２～２７年度に減少したが、平成３０年度から増加している。特定健診受診率は平成３０年度→令和２年度で減少したに関わらず、予備軍と有病者の推定数は増加していることは、着目すべき点で対策を講じていく必要がある。

〇メタボリックシンドローム症候群（※）：該当者増加（２つ該当）、予備軍は（１つ該当）横ばい。

〇糖尿病の予備軍、有病者、メタボリックシンドローム症候群の割合は全て、県目標に到達していない。

（５）循環器疾患予防対策の推進（p44）

〇高血圧症・脂質異常者の推定数は減少しているが、コロナ禍での特定健診診査受診率の低下が影響しており、改善したということではない。

〇コロナの影響で受診率低い。メタボと併せて対策する必要あり。

〇食塩摂取率の県目標（8ｇ未満）達成できていない。

（６）フレイル予防を推進（新規）（p46）

〇新たに追加。健康寿命の延伸と健康格差縮小のため、生活習慣病対策と並行してフレイル予防も推進。

〇これまでのフレイル予防の取り組みとしての高齢者（６５歳以上）は継続していくが、働き盛り世代も健康・維

持・向上に取り組む必要が求められる。（イメージ図により説明）

　　　　　　●歯科保健医療（p51）

〇子どものむし歯は減少しているが二極化も問題。健康格差が見られる。

〇学齢期の歯肉炎罹患が高くなっている。（特に中学校では高い）

　　　　　　　〇歯科検診受診が低いため、あげていく必要がある。妊婦歯科も同様。

　　　　　　　〇４０歳以上の歯周病罹患が高い。歯の本数が増えても歯周病に罹患している問題。

（委員からの意見）

　　　　　　〇がん検診受診率は、以前の数値があってもよい。コロナの影響を受けた数値だけでは全体が見えない。

現在は、もう少し回復してきているのではないか。令和元年より以前の受診率もあるとよい。胃がんの死亡率の高さが気になる。自治体にどうにか力を入れてもらいできるだけ検診に行ってもらうことは大事かと。市町でも自治体で受診率の差があると思うのでそこへの働きかけも大事と考える。

（２）各団体の取り組み状況について（意見交換）

　※高齢化が進んでいくこと、２０４０年問題を見据えて、今後必要となってくると考えられることについ

て、現在の取り組んでいることを踏まえて、３分程度で発言を求めた。

　　　　　（中部歯科医師会）

　　　〇歯科検診の実施、フッ化物塗布、フッ化物洗口の取り組み（コロナ前から実施）、歯科検診の受診率が低い。

　　　　　〇コロナで中止になった影響あり。歯と口の健康が全身の健康に影響を与えると考える。歯と口の健康が長寿には関係する。そのためには、学童期の生活習慣からの取り組みが大事。

　　　　　（県栄養士会）

　　　　　〇栄養ケアステーションをしているが、倉吉未来中心アトリウム　コロナで１年は中止だった。生活習慣病等に関するチラシ配布。現在、無人で実施だが対面にもどしていく予定。

　　　　　　　　〇糖尿病患者：急性期病院から診療所に移行後、コントロールが難しい方が病院にもどってくる方もある。急性期　　　　　　　　　　病院へ入院中は病院の栄養指導しているが、地域に帰るとコントロールがうまくいかないということがある。かか

りつけ医と栄養士の取り組み（東部が進んでいる）で、開業医から栄養士会に依頼が来て、その方をフォロー

する取り組み。中部にも今後拡がっていくのではないか。

　（倉吉労働基準監督署）

〇２０～７５歳が就労している。幅広い年代が働いている状況。

〇就労中の健康がその後の健康につながる。

　　　 〇事業主の認識の向上は大事となる。

　　　 〇一般定期健康診断受診率はさほど悪くはない。コロナの影響はそんなに出ていない。ただ、病気を抱え

ながら働く方が多い。検診での有疾患率が50％と高く、疾病リスクを抱える労働者は増加。

　　　 〇疾病発症から離職が多い。病気休暇制度が浸透しない。メンタルヘルス対策が課題。

　　　　　 〇疾病を抱えながらも労働を継続することが両立できるような取り組みが必要だが、中小企業では浸透しな　いのが現状。

　　　　　 〇中高年齢の女性を中心に労働災害が結構発生している。

　　　　　 〇１０のうち５つが健康関連目標。健康経営が企業にとってプラスになる。安全面　高齢の女性の事故で「つまずいて　転倒」が３割（事故、ケガ）

　　　　　 〇従来、建設業での労務災害は多かったが、近年は転倒という災害が多くなっており、あらゆる業種で起きている。これまでは働きかけでなかった業種だったりする（サービス業）。

　　　　　（県保険者協議会）

　　　　　〇がん検診受診率の足をひっぱっているのは倉吉市。市としても受診率を上げるための働きかけをやっているつもりだが、なかなかというところ。受診率が低い理由は明確には分からない。

　　　　　〇令和５年度からの新たな取り組みとしては、看護大学のまちの保健室と一緒に市保健師も出向いて受診勧奨の声かけを実施。第二庁舎でのテレビでＰＲ

　　　　　〇のぐち内科クリニックと協力してＰＲ。

　　　　　〇自治公民館単位での活動（食生活改善推進員連絡協議会等）

　　　　　〇年長の保育園　食育クッキングの実施

　（日本健康運動指導士会県支部）

　　　　　〇鳥取県健康づくりモデル事業　　企業へ派遣、働き盛り世代への働きかけ

　　　　　〇自らお金を払ってこられる方との意識の違いを感じた

　　　　　〇コロナで意識の途切れが生じている。面倒になった。運動する人が減ったと感じる

〇オンラインレッスンも一時はあったが、家事をしながら見ていたり。実際に会場に来た方が継続し

やすい。

〇７５歳以上の人は熱心。経済的・時間的な余裕がある

　　　（質問）

（小倉所長）

　　　・労働者災害の発生状況についてもう少しお聞きしたい

（労働局）

　発生原因　１位：転倒　３２％　　２位：墜落　２５％　　３位：機械に挟まれる

　　　サービス業に転倒多い。転倒は休業期間が長い。骨折、女性に多い、高齢者が７割

　　　≪今後のスケジュール≫

|  |  |
| --- | --- |
| 令和5年8～10月 | 各部会開催・意見照会 |
| 令和5年10～11月 | 全体会議開催 |
| 令和5年11月 | 計画案提出 |